

翻訳や多言語ウェブサイト制作などを通して、国際化を支援するアラヤサッポロ株式会社。扱う言語は40を超え、世界50カ国以上に在住する登録翻訳者が1,000人を上回る環境で、翻訳業務の割り振りに、多くの時間と労力を費やしていた。そこでコーディネート作業の効率化を図るため、新システムの構築を行った。

1,000人以上の登録翻訳者のデータを常時更新 翻訳のコーディネートを効率化する新システム

手作業で時間がかかる翻訳者の手配

アラヤ株式会社(本社・東京)は、大阪、中国・大連、ドイツ・デュッセルドルフに拠点を置き、多言語ソリューションを提供。ビジネス文書や資料、広告などの翻訳と校正、取扱説明書やオンラインヘルプ等の多言語ローカライズ、国際化に必要な調査・コンサルティングをトータルでサポートしている。

その5番目の拠点として設立されたアラヤサッポロ株式会社(本社・札幌)では、翻訳者の手配を手作業で行っており、翻訳者の選定やスケジュール管理に手間も時間もかかっていた。世界各国の消費者に向けたUI(ユーザーインターフェイス)は、40言語近い翻訳者が必要な場合がある。マニュアルや契約書といった専門知識を要する案件は、それぞれの分野で実績のある経験者に依頼しなければならない。打診した相手の都合が付かなければ、次の候補に相談し、さらに次の候補にと声をかけると、なかなか人の手配ができない。数人に一斉メールで相談しても、一人に受けてもらった後、残り全員にお断りの連絡をする手間がかかる。

また、登録翻訳者の情報がいくつもの資料に分散している上、各自の空き状況をリアルタイムで把握できないため、経験を積んだコーディネーターでなければ、人の手配を担当するこ

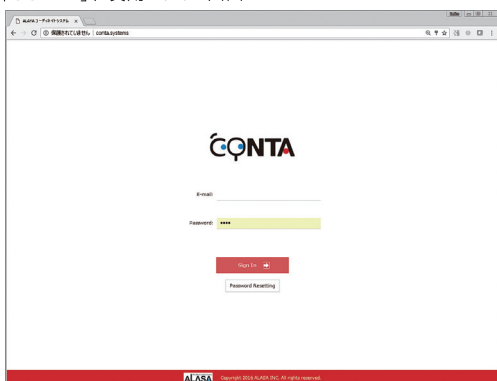
と自体が難しい。ダブルブッキングを防ぎ、データベースと情報網をよりスムーズに活用するため、システムの体系化が急務となっていた。

翻訳者の検索と受注、進捗の管理を一本化

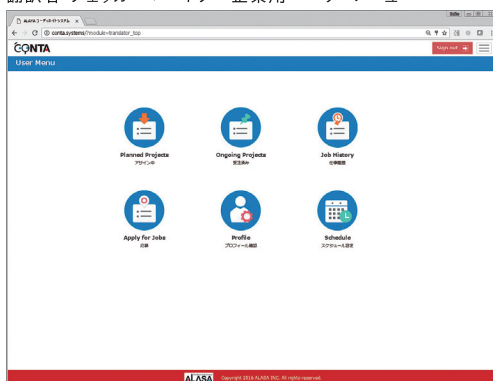
そこで同社では札幌市の支援事業を利用し、発注先のデータベースとネットワークを連動させた双方向運用管理システム「CONTA(コンタ)」を新規開発した。翻訳者はデータベースのマイページから、過去の担当案件や現在進行中の業務、これから受ける予定の仕事などを随時更新。コーディネーターは、翻訳者の得意分野と実績、スケジュールをもとに、最適な人材を効率良く検索できるようになった。検索と受注を1つのシステムに統合した結果、進捗状況を共有してダブルブッキングを防ぐことができ、システムと連動したメール送信機能を利用して、翻訳者への打診やお断り等のメールも一括送信できる。

今後はコーディネート業務の効率化によって、新たなビジネスの開拓に取り組む余裕が生まれ、通訳派遣業務にもこのシステムの導入を検討する予定。翻訳に限らず、人を動かす仕事全般への活用が考えられる。

「CONTA」社員用ログイン画面



翻訳者・チェッカー・パートナー企業用ユーザーメニュー

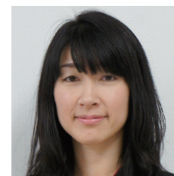


受注管理データベース

マスコットキャラクター



人と人をつなぐ
温もりを感じる
システムを構築



ソリューション開発 マネージャー
三浦 世子

システム化は機械と人がやりとりするのではなく、人と人をつなぐ、関係を密にするためのもの。「CONTA」は、さまざまな分野で用途に合わせてカスタマイズし、コミュニケーションツールとしてのご利用が可能なシステムだと考えております。この先、弊社のみならず、他の企業様にも活用していただけるよう尽力して参ります。